



AMBIENTHOME SPECIAL INTERVIEW



プラン・リープル主宰
高岡 栄次
Eiji Takaoka

1963年 徳島県生まれ
1985年 香川職業訓練短期大学校
建築科卒業後設計事務所に勤務
2002年 プラン・リープル一級
建築士事務所として独立
2007年 株式会社 プラン・リー
ブル設立 現在に至る

吉村 きれいに出来すぎましたね。(笑)
高岡 こういう待合とリハビリスペースの関係に、吉村さんの気持ちが出ていますね。斬新というか、他に無いですね。
吉村 リハビリのスペースを、壁で区切らずに、ドアを通らずに行けるところはあまりないんじゃないですか。
柏木 そうですね。リハビリ室が、バブリックな空間の一部になってます。
高岡 待合で、みんなでテーブルを囲むというのも珍しいですね。普通は、みんな同じ方向、例えば受付やテレビを見ながら、自分の順番を待ちますよね。
吉村 さっきのきれいに出来すぎたというのね、小さいながらも医院の看板を付けたのに、あそこは絶対カフェか美容院だっという話も聞いたんですよ。嬉しいけどずっとそう思われても営業的に(笑)ツライんで…。
高岡 でも、カフェという言葉が出る、こと自体は、成功ですね。病院特有の、

後すぐに高岡さんにも相談しました。
高岡 私も「計画できますよ。」って答えました。整形外科の経験は無かったですけど(笑)
私が設計事務所に勤めた時に、ちょっとした長屋のような集合住宅から、公園とか、音楽堂とか、いろんな建物の設計や計画などに携わってきました。その経験から、みんなの知恵を合わせれば、「何でもできる」と思っています。病院を専門にする設計士さんはいらるだろうし、そのメリットはあるんだと思いますが、ひとりがすべてを知っている必要はないんですね。
誰もが気軽に寄れる場所でありたい
柏木 どんな医院にしたいですか
吉村 本来の整形外科という仕事は、ケガの治療や腰痛、膝痛、肩こりといった症状を治すことなんですけど、往々にして、根本的な原因が他にあったりす

吉村先生は、なぜ、あえて経験のなかったアンビエントホームに
病院の建設を依頼したのでしょうか？

アンビエントさんは、病院って
造れるの

柏木 吉村さんが、弊社と出会ったのは、内覧会ですよ

吉村 家族で散歩しているときに、たまたま通りかかった先で、アンビエントさんが内覧会をしてたんですね。あの頃は、家を建てたいという気持ちで、いろいろな所を見てました。だけど、「他社を全否定した上で、自社が一番」的な話しがほとんどで、食傷気味でもありました。その点、他社のことでも「良い所は良い」という態度で家の説明をしてくれたのが、印象的だったですね。

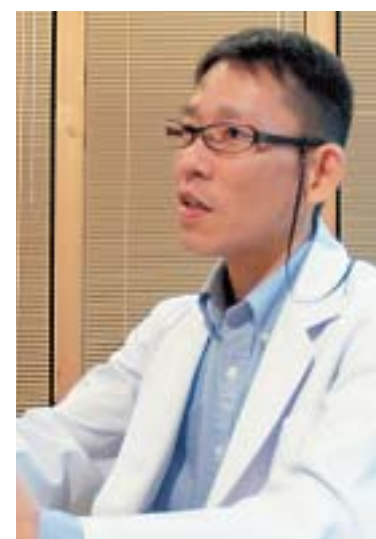
柏木 ここで、開業しようとした理由は何ですか
吉村 簡単に言うと、地元だからです。それまで勤務医だった私が、開業した経緯は、医院のホームページ
<http://www.yoshimura-seikei.com/>
に譲りますが、職住近接というのは、理想の形態です。木太町在住・整形外科医で行きたいですね。

柏木 「アンビエントさんは、病院って造れるの」と吉村さんに聞かれて、私は「できますよ」と即答しました。で、その

堅苦しい雰囲気漂ったりしがちですけど、そうではないモノができたというの、吉村さんの想いが形にできたなと思います。「病院らしくない病院、医院らしくない医院」ですよ。
柏木 ご自宅の話をお願いします。
高岡 住宅も想いは大きいですね。外部から切り離された、家族だけの囲まれた空間。というのをあれだけ大胆に取り入れてくれたのは、吉村さんが初めてですね。
吉村 そうなんですか。
高岡 だって、玄関さえ、外部に面していないですから。(笑)

**エネルギーの多くを注がなくても
ちゃんと造ってくれるという信頼
が大きかった**

柏木 医院に関しては、始めは他社さんでも検討されてましたよね。
吉村 そうですね。



吉村整形外科醫院院長
吉村 裕
Yutaka Yoshimura

1963年 兵庫県生まれ
1988年 香川医科大学卒業後、
麻酔・救急・集中治療に
8年間従事
1996年 整形外科に転科。関節
リウマチ・脊椎外科を
中心に研修
2008年 高松市木太町にて吉村
整形外科醫院を開業

るんですね。太っていたり、姿勢が悪かったり、職業からくるモノであったり、生活習慣病だったりします。それ自体で痛みがあるわけでは無いけども、太っているのが痛いという人はいないですよ(笑)―痛いところを治すのは当然で、それを支えている「カラダ」を元気にする。そういうことをしたいです。その上で、誰もが気軽に寄れる場所でありたい。常に体の調子を報告に来てくれたり、立ち寄って話をしたり、ラウンジのように、みんなが集まる「寄り合い」そして「オシャレな公民館」のイメージです。整形外科的な用が無くても、栄養の事や、ウォーキングや、肩こりの話など、体にとって、良い情報を発信できる場所でありたいですね

きれいに出来すぎましたね。(笑)

柏木 まだオープンしていないので、難しいかも知れませんが、建物の評価をお願いします。



アンビエントホーム副社長
柏木 英治
Eiji Kashiwagi

1963年 香川県生まれ
1988年 専修大学卒業後、団体職員の傍ら、
シネフィル香川を運営
1996年 アンビエントホーム設立に関わる
2008年 アンビエントホーム入社 現在に至る

吉村 建てることに
対して、自分の中のエネルギーの多くを注がなくても、ちゃんと造ってくれるという信頼が大きかったですね。これは自宅で実証済み！ですから。いくら大手さんでも、実際仕事をされる職人さんレベルで、どこまできちっとしてくれるかという不安がありました。まあそれ以前に、デザイン的な部分で、グッとハートを掴まれたのが大きかったです(笑)

柏木 最後に一言ずつお願いします。

吉村 建物に負けない医療をここでやっていきたいですね。現場の職人さんが、形を作ったモノに、私が魂を入れたと思っています。

高岡 造った建物から、力をもらおう。そんな関係に携われたことがうれしいです。

